

令和7年度 第3回 県居小学校運営協議会 会議録(要点記録)

- 1 開催日時 令和7年9月25日(木) 10時20分から10時50分まで
- 2 開催場所 県居小学校 会議室
- 3 出席委員 本多 正明、早川 大介、中村 恵美子、稲垣 美世子、河村 恵子、仲道 有美
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 県居協働センター 桐澤 祐貴
- 6 学校支援コーディネーター 中根 理恵
- 7 学 校 鈴木彰一(校長)、北村のぞみ(教頭)、中西啓介(教務主任)、石崎慶子(CS ディレクター)
- 8 傍 聴 者 なし
- 9 会議録作成者 CS ディレクター 石崎慶子

10 議長の選出

会長から本多委員を推挙する旨の発言があり、全員異議なく了承した。

11 協議事項

- (1) 後期学校改善具体策について
- (2) 学校運営協議会 今年度の目標について
・オブザーバーさんから

12 会議記録

司会の稲垣会長から、委員総数6人のうち6人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 後期学校改善具体策について

議長の指示により、中西教務主任から、前期学校評価及び、第2回運営協議会での熟議に基づいた改善具体策についての説明があった。

中西教務主任から説明のあった改善具体策について、委員からは以下の発言があった。

・高学年からも聞き取りをして、学校運営に活かしていくのはどうか。子どもたちの視点があると、もっとよくなっていくのではないかと(早川委員)

・「ブログで発信」という対策について、ブログは能動的でないと見ない。保護者にどれくらいの率で見られているかは把握できているか。(本多委員)

→閲覧数は確認できるが、閲覧率としては把握していない。(中西教務主任)

→把握できていないのであれば、この対策が「ブログ」のみでよいのか疑問である。さくら連絡網を活用する手もあるのではないかと(本多委員)

→毎日でなくても、ブログを更新した旨をさくら連絡網で連絡してもよい。保護者としては、ブログの更新頻度がもっと高ければよいと思っている。更新頻度が高ければ、ブログ更新通知がなくても能動的に見に行くようになるのではないかと(仲道委員)

・クラス代表による朝のあいさつ放送について、子どもたちが考えたことをやっていくことはとてもよい。(河村委員)

→クラス代表はどのように選出され、誰があいさつをしているのか、児童にはどのように伝わっているか。

(中村委員)

→応募してくれた児童から選出し、あいさつする前に、名乗っている。(中西教務主任)

→あいさつした後に、「今のあいさつは誰だったでしょう」といった方法も、みんなの注意をひけておもしろいのではないか。(中村委員)

・行事の中で、ひとり役というのはとてもよい。どこが良かったかを評価し、フィードバックすることが大切。それにより、その子のものとなっていくと思う。(中村委員)

・高学年の意見については、普段の会話の中から拾えるように、職員のアンテナを高くしておく。ブログの周知については、職員で引き続き話し合っていく。(中西教務主任)

(2) 学校運営協議会の今年度の目標について

今年度の4つの目標について再度確認を行い、委員からは以下の発言があった。

① 学校運営基本方針のより深い熟議を行う

・第2回の運営協議会においては、より深い熟議を行うことができた。(本多委員)

② 学校運営基本方針や運営協議会に関する情報発信の検討をしていく

・サポーター活動について、地域に対してまだまだ知られていない。サポーター募集を始めて3年目になるが、地域の方の参加が減った印象がある。もっと地域と学校がつながる手段がないだろうか。(仲道委員)

→初年度は、さくら連絡網ではなく、主に電話を連絡手段としており、地域の人とつながりやすかったと思う。(本多委員)

→活動が終わった後、サポーターの感想・評価のフィードバックを受けたほうがよい。リピーターが減っている可能性もある。意見を吸い上げて修正していくことが、リピーターもでてくると思う。(早川委員)

・運営協議会メンバーがアピールしてつなげていくのも大事だと思う。地域の老人会などに個別に打診するなど、もう少し地域に甘えてもよいのではないかな。募集についても、もう少し具体的な活動内容を示した募集の仕方がよい。難易度などがわからず躊躇している方もいると思う。(中村委員)

・年度の終わりに、来年度もお願いしたい旨の声かけをするだけでも違ってくると思う。(中村委員)

→以前は年度の終わりにサポーター反省会を行った。そういう場が必要ではないか。(仲道委員)

→図書修繕は、年度始めに説明会、年度終わりに反省会を行った。そういう場をもつことで、サポーターの絆も深まる。ミシンボランティアにおいても、求められる技術がわからず申し込みを躊躇してしまう。あらかじめ説明会があると参加しやすいのではないかなと思う。年度始めにサポーターへの応募を逃してしまった人にも有効である。(中根コーディネーター)

→説明会に参加できないからボランティアもやらない、とならないか。(中村委員)

→活動内容についてブログやコミスクだよりに掲載したうえで、募集時に伝えるとよい。口コミだけでは限界がある。(仲道委員)

・コーディネーターを中心に、継続して新しいアイデアを出してほしい。(本多委員)

③ 特色ある学校づくりについての見直しをする

・10月に浜北である万葉まつりへの参加を案内してもよいのではないかな。自分たちが和歌づくりをする上でのよい刺激になると思う。(早川委員)

・校長室で和歌を詠むというのは、こどもたちの励みにもなり、とてもよい。(中村委員)

・とても特色のある学校でよい、という声も聞くことがある。(河村委員)

・和歌だけに特化し過ぎている気もする。「学ぶ心」「郷土を愛する心」など、賀茂真淵翁の教えも重要なのではないかと。地域で協力できることはないか、学校に提案していけることを、協議会でも考えていきたい。（本多委員）

・普段の家庭の会話の中でも和歌が話題になることがあり、とても特色ある活動だと思う。（中村委員）

④ 県居小サポーターをよりよくしていくための検討をする

・ようやく形になってきたところである。（本多委員）

・学力調査の「質問紙」、全国平均より数値が低かった主な項目について、子どもたちにはまだ引き出しが少なく、知らない世界もある。協働センターでの子ども講座を通して、学校外・学区外の子どもたちとも交流しながら、いろんな経験をしながら世界を広げていくようなお手伝いができるとうれしい。また、協働センターに、コミスクだよりなどを掲示するスペースを設けることもできるため、うまく利用していただければよい。（オブザーバー）

その他報告事項等

学校支援コーディネーターの中根さんと仲道委員から、2 学期の県居小サポーター活動報告があった。

図書ボランティアは、掲示物作成として2回の活動を行い、2 学期は残り4回の活動予定がある。

読み聞かせボランティアは、3 回実施。今後は 11 回の活動予定がある。

った。

夏休みに花壇の水やりを実施した。9月には、すみたんのソーイングと、6年生のミシンボランティアを実施している。ミシンボランティアについては、例年に比べて参加が少ない。

教頭から、次回会議は、令和8年2月12日（木）10時20分から県居小学校会議室で開催する旨の連絡があった。